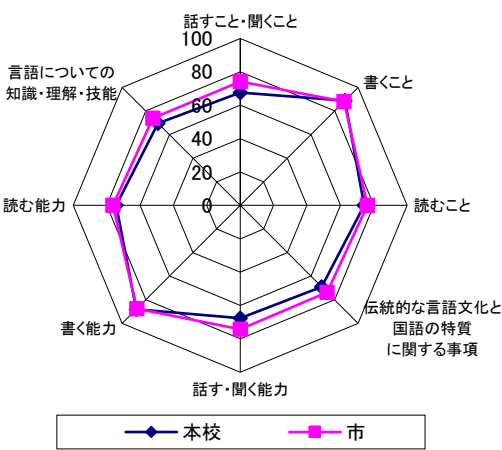


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	67.6	74.2	68.8
	書くこと	88.7	88.0	73.8
	読むこと	74.3	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.1	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	67.6	74.2	68.8
	書く能力	88.1	87.5	73.8
	読む能力	74.3	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	69.5	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

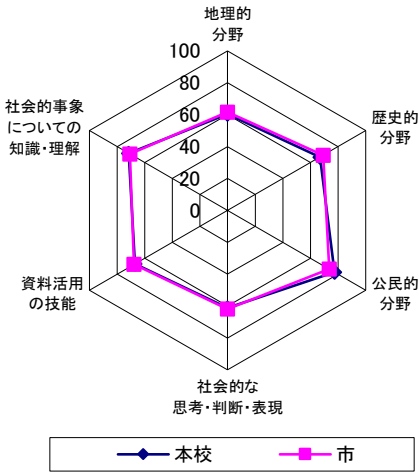
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均を6. 6ポイント下回っている。 ●特に「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる」という設問は、市平均から10ポイント低く、全体としても正答率が50%と、苦手が見られる。	・「読むこと」の単元においても、話し合い活動や討論、スピーチなどの活動を取り入れて読みを深めるようにするなど、「話すこと・聞くこと」の力をつける展開の工夫を授業に取り入れる。また、定期テストごとに「聞き取りテスト」を実施し、話し手の工夫や話を聞くポイントなど、生徒の実生活に関連させて指導していく。
書くこと	市の平均を0. 7ポイント上回っており、全体的な正答率も88. 7%と高い状態である。 ○各設問ごとの正答率も、市平均と大きな差はなく、概ね良好な状況である。	・単元ごとに感想を書いたり、主張文や小論文といった書くことの課題を課し、整った文章を書く機会を増やしていく。また、添削に関しても個別に指導し、自分の文の傾向を知らせることでミスしやすいポイントを理解させる工夫をしていく。
読むこと	市の平均を1. 9ポイント下回っている。 ●設問によっては市平均と同等のものもあるが、「文学的文章」「説明的文章」ともに全体として市の平均より低い。 ○「文学的文章」の登場人物の心情を読み取る設問においては、市の平均を0. 5ポイント上回っており、概ね満足な状況といえる。	・学校図書館と連携し、教科書に掲載されている物語教材の原作本や、作者関連の本、読書単元における参考図書などを取り上げ、読むことへの興味関心や読書の幅を広げる指導を展開する。 ・説明文の読解では、段落相互の関係をとらえるといった基礎的事項を徹底し、レトリックに関する指導にもつなげていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均を4. 5ポイント下回っており、特に古典の設問において苦手が見られる。 ○「漢字の読み」に関しては市平均と同等である。平均正答率も90%近く達しており、満足な状況といえる。 ●「漢字の書き」に課題が残る。いずれも市の平均を下回っており、設問によっても差があることが分かる。 ●語彙に乏しく、「語句の意味を理解して、文脈の中で適切に使うことができる」の設問においては、15ポイント以上市平均と差がある状況である。	・漢字練習はテストごとの課題として定着しつつあるので、今後も継続していく。反復学習が欠かせない分野なので、家庭学習にも力を入れて取り組むよう、指導していく。 ・子どもたちが語彙を増やせるよう、読書指導と関連して意識付けをしていく。また、熟語や慣用句などの単元では、積極的に調べたり文の中で使ったりする活動を増やしていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.5	61.7	54.6
	歴史的分野	66.8	69.2	59.6
	公民的分野	77.4	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	61.2	61.9	51.9
	資料活用技能	67.2	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	71.6	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

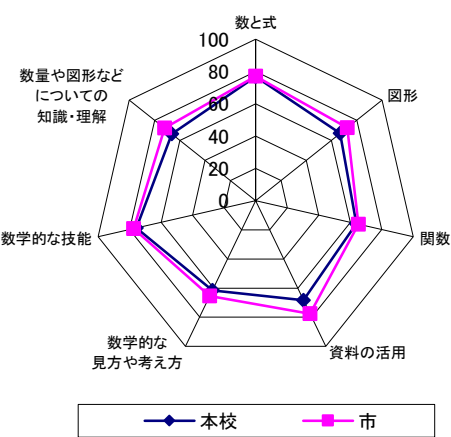
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	地理的分野の平均正答率は、市の平均を1.2ポイント下回っている。 ○日本の諸地域に関する問いについて市の平均と比べ、傾向に大きな違いは見られない。 ●アフリカ州、北アメリカ州に関する問いに対し、市の平均正答率をやや下回っている。 ●北海道地方の道路案内標識について歴史との関連から複数の資料をもとに考察する問題について、市、本校ともに正答率35%と低い。	・前時の復習を毎時間、授業の最初に取り入れ、基礎的な知識や重要語句の定着を今後とも継続して指導していく。 ・1年生の内容の定着がやや低い。長期休業等を利用して、家庭で復習する時間を確保していく。 ・複数の資料を読み取り、考えを導き出す問題が市の平均と同様35%と低いので、資料の読み取りの活動時間をさらに確保していく。
歴史的分野	歴史的分野の平均正答率は、市の平均を2.4ポイント下回っている。 ○縄文時代の遺跡、室町時代の東山文化、江戸幕府の大名統制、明治時代の近代文化について十分理解している。 ●奈良時代の税について記述する問いに対して本校の正答率は45%で市の平均よりも10ポイント下回っている。	・1年生の内容の定着がやや低い。基礎的な知識や重要語句の定着を今後とも継続して指導していくとともに、長期休業等を利用して、家庭で復習する時間を確保させる指導を行う。 ・複数の資料を読み取り、考察し記述する問題が市の平均から10ポイント低いことから、資料の読み取りの時間をさらに確保するとともに自分の言葉で記述する活動を積極的に取り入れる。
公民的分野	公民的分野の平均正答率は、市の平均を3.8ポイント上回っており他の領域より高い。 ○「現代の民主政治と社会」に関する問いに対する正答率は、すべて市の平均を上回っている。 ○「公共の福祉」について自分の言葉で表現する問いに対し、市の平均を13.0ポイント上回っている。 ●「日本の高齢社会」について資料の読み取りが、10.1ポイント下回っている。	・前時の復習を毎時間、授業の最初に取り入れ、基礎的な知識や重要語句の定着を図ってきた成果が現れたものと思われる。今後とも継続して指導していく。 ・自分で考え、自分の言葉で表現する発問を積極的に授業に取り入れてきた成果が徐々に現れている。今後とも継続していく。 ・複数の資料を読み取り、考えを導き出す活動をさらに充実させていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.8	77.1	71.0
	図形	66.9	72.4	59.3
	関数	63.9	65.2	51.0
	資料の活用	68.3	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	61.7	65.5	48.8
	数学的な技能	75.7	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	66.5	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

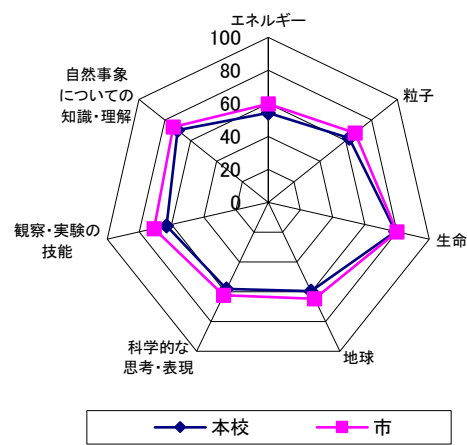
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率が市平均と比べ、-0.3ポイントであった。 ○式の計算については、すべてにおいて市平均を上回っている。平均約87%の達成率であり、3年間の既習事項が身につけていると考えられる。 ●方程式に関して、解き方は理解しているが式の意味する数量を考えることに対して課題が見られる。	・正負の数や平方根の意味およびその数の大小関係などについての理解力を高める指導を行う。 ・方程式に関して、立式の仕方や方程式に含まれる数量がどんな数を表しているかを読み取る練習を多く取り入れる。 ・文字を使った式の意味の学習に力を入れて、方程式の数量の読み取りにつなげていく指導を行う。
図形	平均正答率が市平均に比べ、-5.5ポイントであった。 ○図形の作図については、基本のさあ葛上についている。 ●図形の求積や移動に関する事項の習得に課題が見られる。 ●図形の証明、特に三角形の合同の証明に関しては、市全体の正答率も低いですが、さらに本校は市を下回り、課題として挙げられる。	・図形の位置関係や特徴を理解させた上で、移動や求積の問題に取り組ませる。求積に関しては、平面、立体ともにその図形の求積の仕方をしっかり理解させる指導を行う。 ・図形の証明に関しては、三角形の合同条件や相似条件をしっかりと理解させた上で、証明のしくみについての指導をしていく。また、簡単な図形で基本的な証明を何度も繰り返す練習を行う。
関数	平均正答率が市平均に比べ、-1.3ポイントであった。 ○関数の表を見て、比例や反比例の式を表すことに関しては、できている。 ●文章問題を読み取り、問題文中のxとyの関係を正しく表すグラフを求める問題では、市平均を上回るものの正答率は40%であった。	・1年生で学ぶ「座標」、2年生で学ぶ「変化の割合」等、関数の基礎となる事項の指導を重点的に行う。 ・表やグラフから読み取るという図式化された具体物からの読み取りは比較的思考しやすいが、文章から読み取るという訓練を通して、文章になれさせる指導を行う。
資料の活用	平均正答率が市平均に比べ、-9.3ポイントであった。 ○度数分布表から相対度数を求めることは、8割近い生徒が理解している。 ●「中央値」や「最頻値」など、言葉の把握ができていない生徒が見られる。 ●確率を求める問題に関しての達成率が低く、確率の意味や求め方が課題として挙げられる。	・頻繁に使用される言葉の学習を授業に多く取り入れる。 ・情報化が進んでいる状況の中、資料を「コンピュータ」で処理したり、活用したりという試みを授業の中に取り入れる。 ・確率では、樹形図や表を書いて、「起こりうるすべての場合」をまれや重なりなく書き出す方法や「そのことが起こる場合」を選び出す仕方をしっかりと身に着けさせる指導をしていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.3	59.7	57.9
	粒子	62.7	67.4	59.8
	生命	79.1	79.9	73.5
	地球	59.6	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	58.2	62.3	56.3
	観察・実験の技能	63.2	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	70.3	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

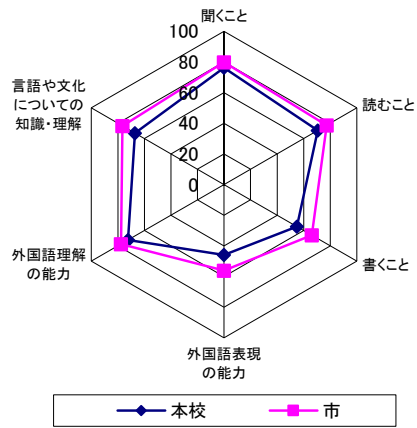
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	エネルギーの分野の平均正答率は、市の平均を5.4ポイント下回っている。 ○音の速さと伝わり方については、市と同等で、全国平均を上回った。小テストの実施と身近な例の提示の成果だと思われる。 ●音の性質、電流と磁界、仕事とエネルギーに関する出題であったが、ほとんどの項目で市の平均を下回った。特に、仕事とエネルギーについては、市並びに全国平均を大きく下回った。これは、物理現象における数量の変化とグラフとの関わりに理解が不足していたためと思われる。	・いろいろな単位やその換算、公式などの多い分野なので、計算の演習問題を数多く行っていく。 ・知識・理解に関わる内容は比較的よくできていたため、さらに向上するように、小テストを重ねて定着を図る。 ・内容が難しく思われ、敬遠されがちな分野なので、身近な例や具体的に生活に関わっている事柄などを提示し、興味・関心を高める授業展開に努めていく。
粒子	粒子の分野の平均正答率は、市の平均を4.7ポイント下回っている。 ○物質の性質に関する分野は、全体的に全国・市平均ともに大きく上回るものが多かった。また、実験の技能とそれに伴う知識を問われるものについては、正答率が比較的高い。 ●化学変化、酸・アルカリとイオンに関する出題で、全国平均を上回るものもあったが、多くの項目で市平均を下回った。特に、知識の活用を見る問題や、数量の変化を問うもので正答率が低かった。	・それぞれの実験に関わる薬品や器具、方法などをきちんと把握したうえで操作をしていく、結果や考察を整理する時間を十分に割くことなどを今後も継続していく。 ・実験後に小テストなど、知識を確認、復習する機会を多く取り入れる。
生命	生命の分野の平均正答率は、市の平均を0.8ポイント下回っている。 ○植物の分類、消化、細胞分裂に関する出題であったが、ほぼすべての項目で全国平均を上回った。また、市平均を上回るものも多かった。特に、生物の組織の表面積を大きくする工夫とその効果を問うものに関しては、思考と活用を要するものであったが正答率がとても高く、市・全国平均ともに大きく上回った。 ●細胞の観察の際に、資料を薬品処理する理由を問うものに対して、市・全国平均を下回った。	・薬品処理などの必要性や既習の実験との関わりなどをきちんと確認したうえで取り組ませる。
地球	地球の分野の平均正答率は、市の平均を5.1ポイント下回っている。 ○火山と岩石に関するものでは、全ての項目において、全国平均を上回った。また、岩石の採掘についての問題は思考と活用を要するものであったが正答率がとても高く、市・全国平均ともに上回った。 ●火山の形とマグマの性質との関係、火成岩の組織のちがいを問う項目で、市平均を下回った。また、前線の通過と天気の変化に関するものでは、全国平均は上回った項目もあったが、全てにおいて市平均を下回った。	・目に見えない物や手で扱えないスケールの大きいものを考える場合は、モデルや図などを活用してイメージを膨らませるような取り組みをしていく。また、そのイメージを言語化し、確認していくような授業展開に努めていく。 ・単元テストや小テストを実施して知識の定着を図っていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.2	79.9	75.7
	読むこと	70.6	77.3	72.8
	書くこと	54.9	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	45.9	56.1	58.8
	外国語理解の能力	72.3	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	67.1	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	「聞くこと」に関する平均正答率は、市と比較し3.7ポイント下回った。 ○本領域における全10の小問中、7問において正答率 80.0以上を達成しており、「聞くこと」の定着度はおおむね良好である。 ●「英文の要点を聞き取ることができる。」問題では、3問中2問で正答率が60.0に満たなかった。 ●「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。」問題では、正答率が16.3であった。	・英語による授業の実施、及びICTを活用した聞き取り活動の充実などにより、「聞くこと」に関する定着度はおおむね良好である。引き続き上記の指導を継続し、学力の定着を図る。 ・「聞いた内容をまとめる」「聞いたことを他人に伝える」など、聞き取りの目的を与えて聞かせる指導を行う。 ・聞き取った内容と、他の資料や情報とを関連させて考える活動を設け、聞き取りの質を高める。
読むこと	「読むこと」に関する平均正答率は、市と比較し6.7ポイント下回った。 ●本領域における全12の小問中、2問が正答率 80.0以上を達成できたが、他10問では正答率が60.0前後であることから、「読むこと」の定着度については、課題が大きい。 ●「英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じることができる。」問題では、正答率が57.5であった。 ●「スピーチの内容をふまえて、感想文を書くことができる。」問題では、正答率が47.5であった。	・与えられた英文を理解するためには、語彙・文構造などの知識が求められるが、必要な量が不足していると思われるので、授業前の単語調べの徹底や、基本本文の練習量を増やすなどして、不足を補うようにする。 ・教科書を、興味を持って読み進めることができるよう、事前に内容に関連する情報を伝えたり、内容に関わる実物を提示したりする。 ・「読むこと」の目的として、「本文を要約する」「本文の概要を他人に説明する」「本文の内容に関する意見を持つ」活動を設定し、質の高い「読む」活動を行う。
書くこと	「書くこと」に関する平均正答率は、市と比較し11.1ポイント下回った。 ●本領域における全13問の小問で、正答率が80.0を超えなかった。「書くこと」の定着率において、課題が大きい。 ●「英文を正しい語順で書くことができる。(疑問詞+to不定詞の文)」問題では、正答率が31.7であった。 ●「英語で質問する文を書くことができる(howを使って期間をたずねる)」問題では、正答率が25.0であった。 ●「対話の流れに合った英文を書くことができる。(未来表現を使って時期をたずねる)」問題では、正答率が20.0であった。 ●「自分の夢について、まとめた内容で説明する文を書き表すことができる。」問題の、「第1文に、自分のなりたいもの[したいこと]を表す文が書かれている。」では、正答率が39.6であった。	・教科書の本文を書き写したり、単語を書く練習をしたりするといった、基本的な学習活動を家庭学習の課題とし、定着を図る。 ・毎時の学習に「書く」活動を設け、継続して「書くこと」が行わせる。 ・基本本文に、自分の情報を載せて書き換える活動を増やし、様々な場面で自己表現ができる実感を得られるようにする。 ・まとまった文章を書くためには、「内容」が必要となるので、普段から身の回りの事柄を気に留めておき、話題を蓄積していくことができるよう、授業における英語でのやり取りの回数を増やす。

宇都宮市立宝木中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『分かる授業』の推進	「学校の授業がどの程度分かりますか」について ○1年生84.3%(昨年度より2.0ポイント高く、宇都宮市より1.0ポイント高い) ・2年生81.9%(昨年度より1.3ポイント低く、宇都宮市より0.3ポイント高い) ●3年生78.7%(昨年度より5.5ポイント低く、宇都宮市より3.0ポイント低い)
	・効果的なノートを活用	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ●1年生71.3%(昨年度より3.7ポイント低く、宇都宮市より8.8ポイント低い) ●2年生65.4%(昨年度より7.2ポイント低く、宇都宮市より9.3ポイント低い) ○3年生82.8%(昨年度より4.6ポイント高く、宇都宮市より5.1ポイント高い)
	・話し合い活動の積極的な導入	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について ・1年生80.9%(昨年度より1.1ポイント高く、宇都宮市より0.2ポイント低い) ●2年生75.6%(昨年度より2.6ポイント低く、宇都宮市より4.2ポイント低い) ・3年生84.4%(昨年度より0.7ポイント低く、宇都宮市より3.2ポイント高い) 「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」について ・1年生66.1%(昨年度より3.2ポイント高く、宇都宮市より1.9ポイント低い) ・2年生67.7%(昨年度より3.2ポイント高く、宇都宮市より1.5ポイント低い) ●3年生69.7%(昨年度より1.6ポイント低く、宇都宮市より4.3ポイント低い)
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2) 家庭学習の習慣化	「学校から、家庭学習に必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている」について ・1年生92.2%(昨年度より1.1ポイント高く、宇都宮市より3.0ポイント低い) ●2年生78.7%(昨年度より11.6ポイント低く、宇都宮市より13.3ポイント低い) ・3年生89.3%(昨年度より1.2ポイント高く、宇都宮市より1.0ポイント低い)
	・意欲や目的をもって取り組める宿題吟味、工夫	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」について ○1年生91.3%(昨年度より7.4ポイント高く、宇都宮市より7.5ポイント高い) ●2年生78.7%(昨年度より1.9ポイント低く、宇都宮市より4.4ポイント低い) ○3年生91.8%(昨年度より3.7ポイント高く、宇都宮市より4.6ポイント高い)

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
	・自主学習ノートの活用	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について ○1年生69.6%(昨年度より29.3ポイント高く、宇都宮市より16.6ポイント高い) ●2年生39.4%(昨年度より3.3ポイント低く、宇都宮市より3.1ポイント低い) ●3年生45.1%(昨年度より18.3ポイント低く、宇都宮市より3.0ポイント低い) 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について ・1年生57.4%(昨年度より5.0ポイント高く、宇都宮市より3.9ポイント低い) ○2年生58.3%(昨年度より18.1ポイント高く、宇都宮市より1.5ポイント高い) ●3年生59.8%(昨年度より14.5ポイント低く、宇都宮市より6.9ポイント低い) 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について ○1年生80.9%(昨年度より9.9ポイント高く、宇都宮市より4.0ポイント高い) ・2年生66.1%(昨年度より10.5ポイント高く、宇都宮市より4.6ポイント低い) ●3年生61.5%(昨年度より14.7ポイント低く、宇都宮市より14.7ポイント低い)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて

- ①「本時の目標（めあて、ねらい）」の確実な提示
 - ・マグネットシートで作成した「本時の目標」を全教室に設置し、毎時間の学習課題に即した目標（めあて、ねらい）の提示を徹底させる。
- ②効果的なノートの活用
 - ・教科担任による板書の工夫や学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させ、見本となるノートの例を学年の廊下に掲示する。
- ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる（主体的に考えられる）発問の工夫
 - ・教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通じた授業力の向上を図る。
- ④話し合い活動の積極的な導入
 - ・グループ活動や発表会など、各教科担任による話し合い活動をより一層充実させる。
- ⑤「ふりかえり」活動の徹底
 - ・マグネットシートで作成した「振り返り」を全教室に設置し、ワークシートやチェックテストなどを活用して、毎時間の学習課題に即した振り返りを確実に実施する。

(2)家庭学習のより一層の充実に向けて

- ①学習に対する家庭の関心を高める工夫
 - ・三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。
- ②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛
 - ・学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言や認める指導を充実する。
- ③家庭学習の仕方を明示、説明
 - ・「家庭学習の手引き」を活用し、生徒には年度初めのオリエンテーションで、保護者には保護者会で家庭学習の仕方を説明する。
 - ・定期テスト前など、定期的に教科担任から復習方法の指導を行う。